



おおみやストリートテラスの様子。コーヒー等を販売するカフェのほか、野外コンサートや積み木遊びなど様々な企画が行われました。

藤村 休憩したり子育て世代の人たちが集うパブリックスペースが駅前にはないという点も以前から指摘されていました。それを実現できる場として、使ってもらえているんですね。

◆他の公共空間についてはどのような活用方法が議論されていますか？

藤村 大宮区役所前の氷川緑道西通線事業用地にあるオープンスペースを「おおみやストリートテラス」として暫定的に活用できないかと考えています。平成29年9月にはオーブンカフェを開くなどの社会実験を行う予定です。(取材時8月。現在終了)

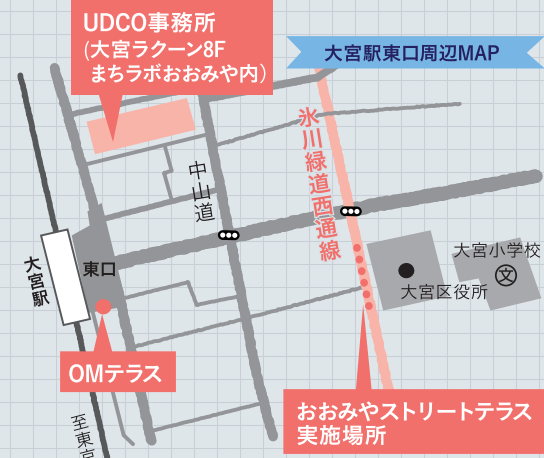
泉山 現在、国も規制緩和を進めていて国家战略特区などで公共空間を使った民間活動の試みが増えています。昔は設計工事をするところから始まりましたが、最近ではベン

ダー(移動式店舗)や椅子を置くなど仮設的なもので場を変えていくという流れができてきています。

内田 今回はそうした一つの例を皆さんにお見せすることで、公共空間の使い方や、公共空間があることの利点について考えてもらえるきっかけになると良いなと思っています。

/// 公共空間の使い方を考えることがまちを豊かにする

藤村 海外を例に挙げると、NYでは道路や使われなくなったインフラを積極的に使ってイベントを行ったり、市民の憩いの場を広げました。さらに周りの事業者にも費用を負担してもらったり、参加してもらうことで、イノベーションを次々に起こしてきました。私たちはこうした取り組みを大宮でもできないかなと考えてい



UDCOのスタッフと一緒に。

ます。今後は人の交流を育む場としての公共空間をつくりたいけるように、まちづくりを進めていきたいですね。

既存市街地の再構築で「歩きたくなるまち」を目指す

UDCOセンター長 工藤和美氏



大宮は歴史があり、大きな市街地でもあるので、一からまちをつくるというよりは、再構築を目指す大きな転換期にきていると感じています。地域ごとにビジョンが違うこともあり、街の人々の声の一つの形にしていくことの難しさを感じることもありますが、専門家ならではの提案や情報の提示などを通して話を進めていきたいと思っています。

現在は大宮駅グランドセントラルステーション化構想と合わせて、氷川緑道西通線の整備や大宮区役所移転後の跡地の活用、氷川参道周辺エリアの活性化に向けたプロジェクトなどが次々に始まっています。

大宮の良さは商業業務エリアと住宅地、田園風景が近距離にあるところですが、今後はそれらを維持しつつ、生活者や観光客が「歩いて楽しい」と思えるまちづくりをしていきたいですね。

大宮の未来設計

UDCOの仕掛け人たちが語る



UDCOディレクター 泉山 聖威さん  
東京大学・先端科学技術研究センター助教。公共空間の利活用方法を研究対象とし、様々な提案を行っている。

UDCO副センター長 内田 奈芳美さん  
埼玉大学・人文社会科学部研究科准教授。まちづくりの地域協働・市民参加についての手法の分野のスペシャリスト。

UDCO副センター長 藤村 龍至さん  
東京藝術大学建築科准教授。RFA主宰。OMテラスの設計のほか、全体のディレクターとしてUDCOの運営に関わる。



OMテラス  
左上/2Fは自由に解放されたテラス空間。Wi-Fiの使用も可能  
右上/1Fのコミュニティサイクルポート  
下/OMテラス全景

様々な場所で活発化する再開発への議論

◆開設してまだ間もないですが、UDCOでは既に様々なプロジェクトが動き出しているようですね。

藤村 現在ディレクターとして全体の運営に関わっていますが、再開発に対する機運が市民の間で盛り上がりつつあるのを感じています。大宮駅グランドセントラルステーション化構想と合わせて、3・11後に「災害に強いまちづくり」という観点も含めて変えていかなければ」という声が起こったことも後押ししているようです。

内田 大宮には商店街など、既に成熟したコミュニティがありますから、まちの再構築に関する議論が活発です。それぞれで豊富なアイデアも出

公共空間の使い方を広げていきたい

◆第1段階として、駅前にOMテラスが完成しました。どのような利活用のアイデアがありますか？

藤村 色々ありますが、一つは商業振興のために活用できたらと思っています。商店街の人たちから「駅前は賃料が高いため、新しく店を始めたい人が出てこれない」という話が上がっているんです。資金が少なくてもチャレンジショップが出せるように、OMテラスを活用できないか検討しています。

◆現在は憩いの場として、多くの方が訪れているようですね。

てきているのではないのでしょうか。